

2013 年度 学術交流支援資金報告書  
外国語電子教材作成支援

3-1 ファミリービジネス論  
(討論用事例教材データベース開発プロジェクト)

総合政策学部 准教授  
飯盛 義徳

1. 概要

2004 年度より継続して、電子教材のデータベース構築を進めている。データベースに集積している教材は、専門職養成教育を行う上で有効性が証明されている事例討論を行うためのケース教材で、一事象あたり 20～30 ページ程度のものである。SFC の国際化の動きに伴い英語による授業数が増えていることから、英語教材の必要性が高まっているため、2011 年度より英語による事例討論教材を開発している。今回開発した教材は 2014 年度以降の授業において、ケース教材および授業用のパワーポイント資料として使用する。「ファミリービジネス」等の大学院生向け授業は留学生が多く、授業資料に英語を併記するなどの工夫は授業進行を円滑にすると考える。また、開発した教材や資料は、ファミリービジネス研究を行っている海外の研究者や大学（例えば、スイス IMD の Turpin 学長）および海外のファミリービジネス学会へ、日本のファミリービジネスの事例を紹介する資料とするなどの活用を行う予定である。また、『星野佳路と考えるファミリービジネスマネジメント』（日経 BP 社、2014 年 2 月）には、ファミリービジネスの教材を開発し授業で学べる大学として SFC が紹介されている。

開発した教材は、討論用事例教材データベース開発プロジェクトの一貫として 2004 年度に立ち上げた「電子教材配布プロジェクト」サイトにてデータベースとして集積し、クリエイティブコモンズライセンスによる配布を行っている。サイトアドレスは以下である。

<http://case.sfc.keio.ac.jp/> (日本語教材データベース)

[http://case.sfc.keio.ac.jp/case\\_en/](http://case.sfc.keio.ac.jp/case_en/) (英語教材データベース)

2. 2013 年度の取り組み

今年度は 3 件の英文ケース教材および 4 件の講義資料を開発した。

(1)

**Yamato Gokin Co., Ltd.**

—Unsung hero, inheriting technologies to support Japan and the world—

In September 2013, Yamatogokin Co., Ltd. (hereinafter “Yamato Gokin”) Representative Director and President Genjiro Hagino and his father Shigeo Hagino were considering strategies for spreading their company’s technologies globally, as their factory rumbled with the sound of presses.

Yamato Gokin was founded in 1941 by Genjiro’s grandfather Shigeru Hagino, thus making Genjiro the third-generation owner of this family business. In 1943, Shigeru reorganized the company’s predecessor Fuji Tokushu Kinzoku Research Institute into Yamatogokin Co., Ltd. in order to respond to growing demand.

特定非営利活動法人 ファミリー・ビジネス・ネットワーク・ジャパンからの委託研究の成果として、SFC 研究所上席所員（訪問）伊藤妃実子が日本語にて開発したケースを、飯盛が監修し、英語に翻訳したものである。

(2)

**Ryobi Holdings**

—Revitalizing public transport in local communities and inheriting business operations—

In October 2013, Ryobi Holdings Co., Ltd. (hereinafter “Ryobi HD”) Representative Director and President Mitsunobu Kojima looked out from his window at the rows of buildings in front of Okayama Station and considered measures for handing down his business to the next generation. Ryobi HD possesses management principles and business operations that have been handed down for over 100 years, since the era when the company was known as Saidaiji Tramway Co., Ltd. (hereinafter “Saidaiji Tramway”). (Appendix 1: History of the Ryobi Group) Now that Ryobi HD has thoroughly inherited these features, how will it find and develop its next generation of human resources in order to manage such features?

Ryobi HD is centered on transport and transportation and is the core company of the Ryobi Group, which has supported people's daily lives in Okayama Prefecture for over 100 years—since the company was established in July 1910 as Saidaiji Tramway..

特定非営利活動法人 ファミリー・ビジネス・ネットワーク・ジャパンからの委託研究の成果として、飯盛研究室ファミリービジネス研究チームと SFC 研究所上席所員（訪問）伊藤妃実子が日本語にて開発したケースを、飯盛が監修し、英語に翻訳したものである。

(3)

### **Kokando Co., Ltd.**

—Traditions and innovations of a Toyama “medicine vendor”—

In September 2013, Kokando Co., Ltd. (hereinafter “Kokando”) Chairman of the Board of Directors Yasuhiko Shioi was taking a brief rest during a flight back home from a business trip. Although he was resting, he was pondering the future direction of Toyama's pharmaceutical/patent medicine industry, which has a long history dating back to the Edo Period, and how Kokando should proceed going forward.

Kokando is a pharmaceutical company that was established in 1876 when its predecessor the Toyama Han (Domain) Hangontan-yakusho (offices that sold pay-for-use medicines and managed and supervised sellers) was abolished based on the “Abolition of the Han System and Establishment of the Prefecture System,” and joint investments were made by a number of household medicine manufacturers of that time.

特定非営利活動法人 ファミリー・ビジネス・ネットワーク・ジャパンからの委託研究の成果として、飯盛研究室ファミリービジネス研究チームと SFC 研究所上席所員（訪問）伊藤妃実子が日本語にて開発したケースを、飯盛が監修し、英語に翻訳したものである。

(4)

The Process Research of a Family Business' Getting Through Its Crisis

## Case: Hayashibara Group

In Japan, many traditional family businesses have been operated continuously for 100 or even 1,000 years. They have overcome crises, such as war, disaster, depression and crash for a long time. Therefore, crisis management is important for the continuance of the family business. The purpose of this study is to show the factor in family business' crisis and victory over the difficulties by case of Hayashibara Group by applying the Corporate Rehabilitation Law. The major result from recent studies has been that conflict is a factor of crisis, but no speculation has taken place in the cooperative family business. This study selected a single case study, and embedded unit of analysis based on the four crises of Hayashibara Group. In addition, we analyzed the data of family interview by M-GTA. The present work concluded that the factor of crisis in the family business is due to interception of information by thick relationship. It is found that trust, consideration, and synchronization delayed the recognition of each other that forecast a crisis. Besides, factors to overcome the crisis show that top managers first clear an aim in business and family, there is a need to unite the family. Similarly, in order to keep the trust of stakeholders, and control a betrayal or faith it is important to make altruistic decisions.

ファミリービジネスの危機に関する貴重なケースを論文化し、英訳した。講義の参考資料として利用する他、海外の学会などで発表も予定している。

(5)

Direction of Family Business Studies

Management of Family Business

The Hayashibara Crisis and the Nagase & Co. Endeavor

上記3本のパワーポイントによる講義資料を英訳した。

3. 電子教材のデータベース化およびクリエイティブコモンズライセンスに

## よる電子教材の配布について

教材用事例の電子版データベース作成のメリットは以下である。

### (1) 経済性

小規模出版となるため通常の紙媒体による配布では印刷コストが大きくなるものを電子化することによって、安価に配布できる。

SFC における授業だけではなく、他大学においても授業教材として「電子教材配信プロジェクトサイト」のデータベース教材を利用していることが、記録から明らかになっている。

### (2) 機動性

最新の事象を速やかに教室での討論用に供することができる。技術の持つ、社会的、経済的意味などについて討論を行う上では、実社会の動きに密接に関係する教材を継続的かつ機動的に提供する必要があり、データベースによる配布がふさわしい。

先端事例を新たに教材にする場合、取材から教材化、関係者からの公開許諾取得までのプロセス終了後、すぐに配布できる機動性は重要である。

### (3) 遠隔教育などでの活用可能性

遠隔教育システムを利用し、講師が遠隔地にいながら討論型授業を行うことのメリットは大きい。また、通常の授業に他大学や外部関係者まで参加していただき、多くの視点を与えてもらうことにも大きな意味がある。そのような授業を実施するにあたっての教材配布手段として、教材データベースは極めて有効である。SFC-GC にて配信される多くの科目、特に「ファミリービジネス論」のように e 科目も併設された科目では教材の配布方法が問題となるが、「電子教材配信プロジェクトサイト」は、教材の受け渡しに関する利便性の向上に、計り知れない貢献をしている。

このプロジェクトでは、著作権を執筆者と共有とし、CNS ネットワーク上に國領研究室が運営する「電子教材配信プロジェクト」サイトを構築、非営利目的の使用に対しては教材を無償で電子的に公開することとした。ただし営利的な教育機関に対しては有償での教材販売を行いうるような体裁で公開している。

教材は、可能な限り自由な利用、流通を目的とするため、添付されたクリエイティブコモンズライセンスの下に公開されている。このライセンス下で公開

されたケース教材は、営利企業内での教育研修や、非営利組織での有料研修など、非営利利用でのルールを守る限り、自由に本作品を複製、頒布、展示、実演することができる。営利的利用の場合は申告していただき、教材購入に関わる費用を負担していただく。2013年度は、2件46部の有料でのケース利用申請があり、手数料を含めた合計22,500円を請求させていただいた。

利用にあたっては、教材のダウンロードから印刷、利用方法等全て利用団体に任される。利用方法、及び利用部数を自発的に申告してもらうことで、物理的交換に束縛されることなく、自由な流通、利用を促進することが可能となる。2013年の利用はSFC内部者が128名、外部者が248名であった。今後、電子教材の配布のあり方の社会実験としての側面も形にしていきたいと考える。

以上